

朗読劇 「天気予報が消えた日」 2022年

故増田善信さんの戦争体験を、当時、二階堂まりがご自宅に伺いインタビューし、この朗読劇を作成し、平和フェスタ2022で演じました。以下は、増田さんの戦争体験を中心に、一部のみ掲載します。詳細はホームページをご覧ください。

A 「桜散る予報で送りし友戻らず」

元海軍氣象士官の増田善信さんが新聞の「平和の俳句」に投稿した句だよ。意味わかる？

B 海軍ってことは戦争中の話だね。送り出すというよりは・・・もしかして特攻隊のこと？

A そう！増田さんは気象予報をするために、島根県の宍道湖西方にある海軍大社基地に所属していたの。



M 長さ4メートルの魚雷を抱え、エンジンをかけて出撃体制を整えた海軍の陸上爆撃機「銀河」数機が滑走路わきに並んだ。その横に飛行服の上に着いたマフラーをつけた飛行隊員が整列した

(③特攻隊員)「太平洋高気圧が張り出しており、天気が良い。雲量は二ないし五。南東の風ないし南風」沖縄に向かう航路の天気予報を隊員に伝える

B これっていつの話？

A 一九四五年八月上旬。

B 一九四五年八月ってもう敗戦が決まったようなものだったんだよね。

A そう。原子爆弾が六日に広島に九日に長崎に落とされ、天皇が敗戦の放送をしたのが十五日の正午だものね。

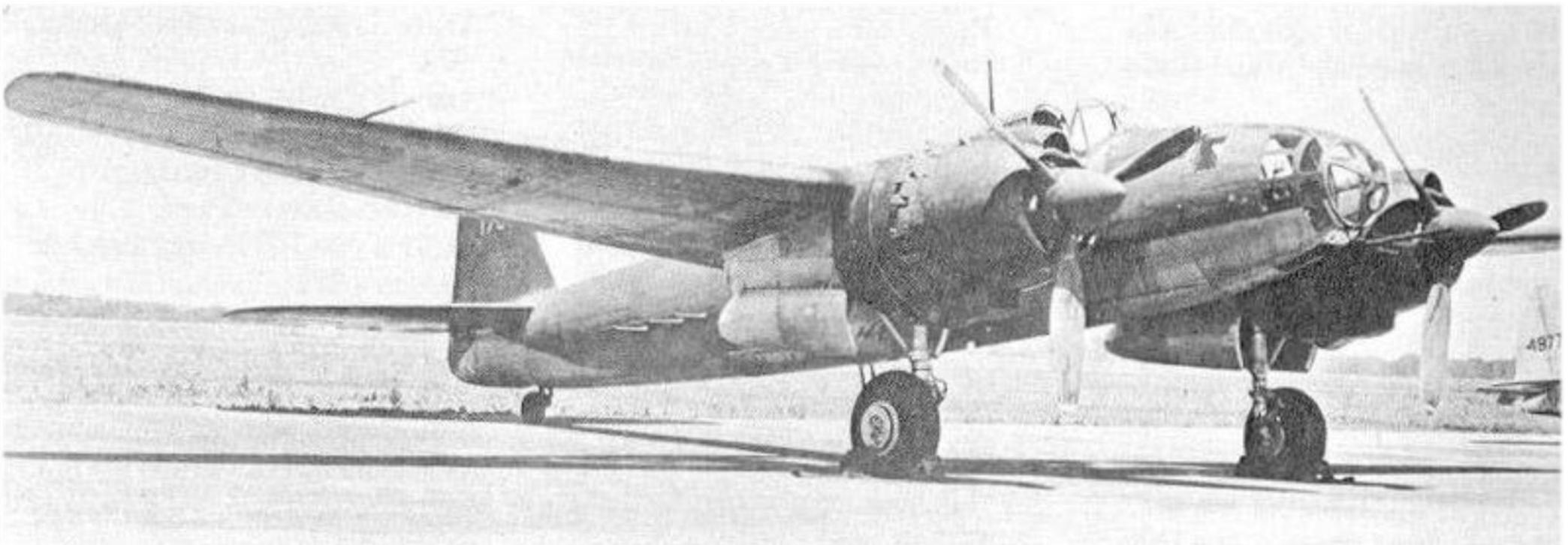
B それに沖縄は六月にすでに米軍が占領していたんだよね。

A うん、六月二十三日は沖縄では慰霊の日として休日になってる。現地の司令官だった牛島満中将が自決して、日本軍による組織的戦闘が終わった日なんだ。

B それなのに特攻隊員を送り出したの？

A 国民には最後まで戦えと言っていたからね。

M 沖縄に向かう出撃機のほとんど



が目的地までたどり着けなかったと聞いていた。制空権を握った米軍に宮崎県最南端の都井岬沖で撃墜されるからだ。

B 銀河は特攻の任務を持っている、敵の軍艦に突っ込んで行ったんだよね。

A まず帰ってくることはできない飛行機の乗員に対して、航路が安全な天候状態であることを告げるのが増田さんの任務だった。

M 飛び立った銀河の薄緑の機体が夕日に照らされ、穴道湖の上空を旋回していた。撃墜されると知りながら、見ていることしかできなかった。「天皇のする戦争に間違いはない』と思い込んでいた当時は『任務だから仕方がない』と思って黙って受け流していた。

B 特攻隊員の人はどんな気持ちだったんだろう・・・いくら表向きは「天皇のため」とか「お国のため」とか「愛する人のために喜んで」とか言ってたって心の奥では違っんじゃないかなあ・・・

A 地上部隊の増田さんは、普段は航空隊の特攻隊員と接する機会はなかったけど、ある夜、士官だけの壮行会があって、お酒も出たんだって。おそろく特攻隊員を送り出すためだったと思うって。

M 突然「たすけてー」というような女の人の叫ぶ声が聞こえました。日本刀を手に、お酌をする女性を追いかけ回している殺気立った士官がいました。「貴様、俺をなめてんのかー!」というようなことを口走っていました。おそろくお酌が気に食わなかったのでしょ。



B お酒が入ると、いつも我慢していたものが切れて、抑えていた感情が弱い者に向かって出てしまうんでしょうね。二三日後には出撃して死ぬんだってどんな気持ちだったんだろう。

A その出撃に関して、増田さんが今でも辛い思い出として残っていることを話してくださったんだけど・・・

A 飛び立った銀河が、時々、「エンジン不調」とか「前方に積乱雲あり」とか交信してきて引き返してくることがあるんだって。そうすると、飛行長に「なけなしの油を使って出撃してるんだ！正確な予報を出せ！」って怒鳴られる。それで、資料を持って行って、反論したそうなの。積乱雲なんてないって。

自分の出した予報には自信があったから。

そうしたら、飛行長が資料も見ないで、「もういいんだよ」と一言。

B どうして？

A 飛行長は積乱雲なんてなかったことを知っていたんだと思うって。特攻隊員の死にたくないという気持ちが分かったんだと思うって。増田さんは、後で、気持ちを考えてあげられなかった自分をとても恥ずかしく思ったとおっしゃってる。

B そんな優しい飛行長もいたんだ・・・

A ちょっと話が変わるんだけど、増田さんは以前「天気予報が消えた日」という講演をしてらしたの。戦争になると天気予報が無くなるって話。

M 太平洋戦争が始まった十一月八日は京都府の宮津測候所で当番の日でした。朝早くラジオから、勇ましい軍艦マーチ（音楽）と共に「わが帝国陸海軍は本日未明、西太平洋において米英と戦闘状態に入れり」

という言葉が流れてきました。私たちは「やった」と叫びあい、「わくわく」した気持ちで出勤しました。

一七時過ぎから一人になり、十八時過ぎから、新しい天気図を広げて風向き・風速・気圧などを記録するために無線の放送を待ちました。いつものように北海道の稚内のところペンを置いて、待っていたのですが、放送がいつもと全く違うのです。急いでわら半紙を取り出して、途中からですが電文全文を書き取り所長の家に駆け付けました。「所長さん、所長さん、変な電報が来ましたよ！」

A 所長は慌てもせず「おう、来たか」と言ってお測候所の金庫から「極秘」と刻印された真つ赤な表紙の本、「乱数表」を取り出して「これなんだよ、君。これを使えば暗号が解けるんだよ」と言ったそうです。

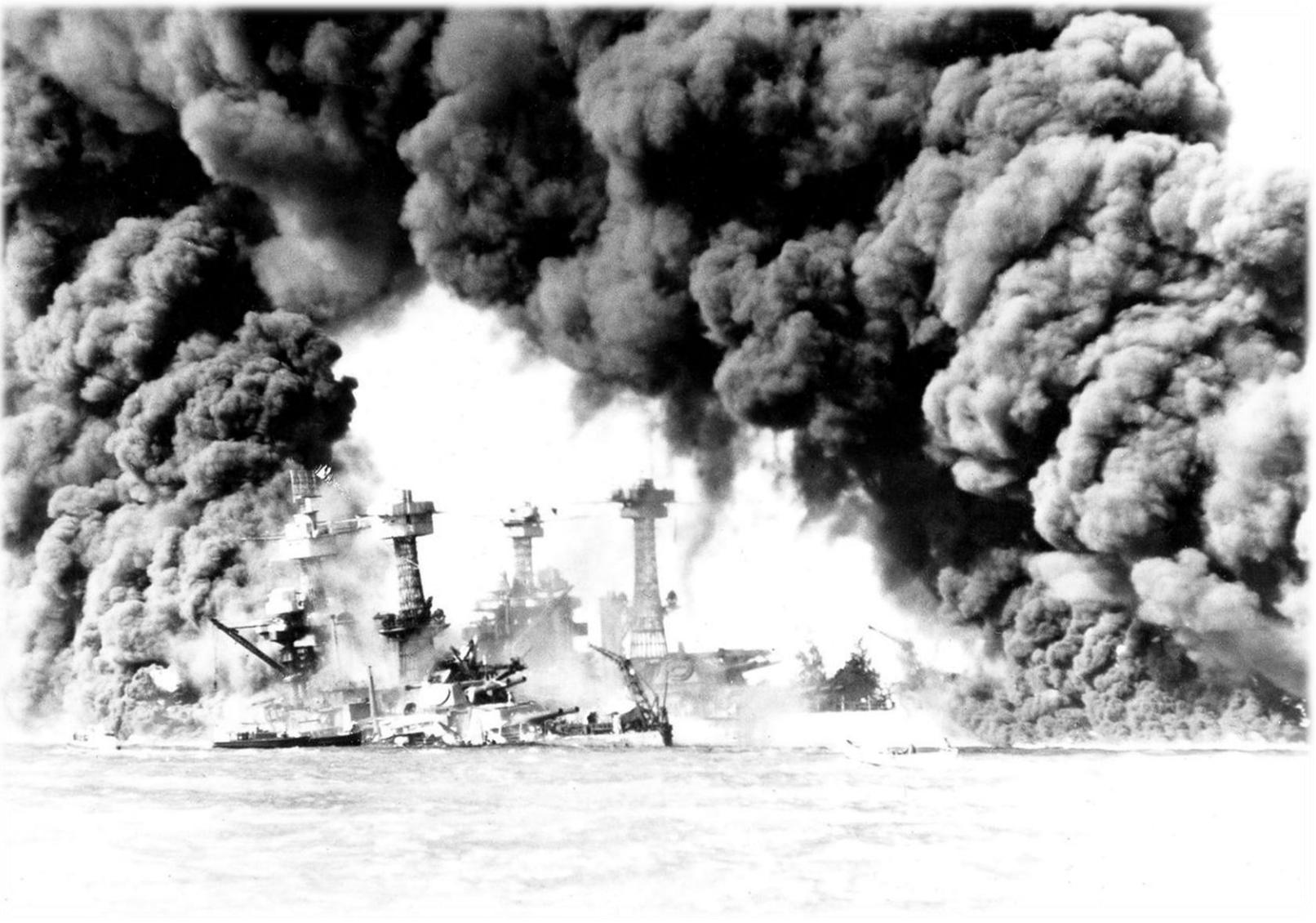
M それ以後の気象を送る電報は暗号になり、天気予報は一般の人には伝えられなくなりました。

A 明治三十二年にできた「軍機保護法」(⑥軍機保護法)が、昭和十二年に全面的に改正されて軍事機密の範囲が拡大され、刑罰が強化されたんだって。

B なんで天気予報を極秘にするの？

A さっきの特攻隊員の話でも、「前方に積乱雲」があると戻ってきてき

B そうか、雲の状態や天気は攻撃をするかしないかを決める要素になるわ



けか。

A 風の強さなんかでも作戦が変わってくるだろうし、目標がよく見えるときに爆弾を落とすとか、敵が日本を攻撃するときに利用される恐れがあったんだよ。

B なるほど、天気予報って重要なんだね

A 十二月八日の午前8時に陸海軍大臣が「氣象管制」(⑦氣象管制)を命令して、氣象無線はすべて暗号化され、新聞・ラジオの天気予報の発表は全部中止されたんだって。

B 天気予報が消えた日！でもさあ、天気予報が軍にとって重要なのはわかったけど、天気予報が消えたとして日常生活ではそんなに困るかなあ・まあ、明日は傘がいるかなとか上着持ってた方がいいかなとかで、よくチエックはするけど、なくなるとそんなに問題かなあ。

A 最近は大雨の被害が出たり、台風が多かったりするじゃない。それ、予報がなかったらもっともった大変だよ。

B 確かに！暴風雨や、それから津波も氣象予報だね！

A 大きな台風で犠牲者がたくさん出たし、何万という家屋が全壊したの。地震によ



1944年の東南海地震で尾鷲市は大きな被害を受けた

(提供尾鷲市、撮影太田金典氏)

って起こる津波の被害も多かった。(8)地震の写真)

M 一九四四年十二月の東南海地震とそれに続く三河地震でも多くの死者が出たがほとんど報道されず。学童疎開の子どもも多数死んだが親にも知らせず。

A 神の国日本は強いんだからと悪いことは知らせないようにしてたんだよね。土気に、やる気にかかわるからね。

M また、漁師にとって、季節風や天気の急変などを知ることが命に係わる大切なことだが、それを教えることを禁止され心苦しかった。

A 天気予報は、人の命を守ることに使えるし、命を奪うためにも使うことができるんだね。

B 戦争が始まるとすぐに気象管制って、前から準備をしていたのかなあ。

A (太平洋)戦争が始まったのは一九四一年十二月八日だけど、その四位前から次々に法律を作って着々と準備していた。暗号書も全国に配っていたらしい。水面下で。

B 政府が国民に情報を隠すっていうのはいまも変わらないよね。(9)秘密

保護法の反対の写真一枚)



A 特に心配なのは、二〇一三年に「秘密保護法」が成立してしまったこと。

B 秘密保護法？

A 漏えいすると国の安全保障に著しい支障を与えるとされる情報を「特定秘密」に指定し、それを取り扱う人を調査管理し、それを外部に知らせたり外部から知ろうとする人などを処罰することによって「特定秘密」を守ろうとするものだって言ってる。

(そして、何が「著しい支障になる」か規定されないまま強行採決されたこと、民主主義が機能していないこと、そして報道の自由に触れ、日本は世界の71位という低さと指摘。最近の安倍元首相銃撃の大手5紙の報道が全て同じであることに触れ、)

A 知らないということは本当に恐ろしい。今のロシアの人たちも何も知らされていないから、ウクライナを助けてあげているんだと思ってる人がたくさんいるんだよね。

B 正しい判断をするためには、事実を知る努力をしなくちゃ！

A 再び「天気予報が消えた日」が来ないように、しっかりと目を見開いて、見て知って考えて批判すべきことには声を上げていきたいね。

BM そうだね

